

季刊 まち・コミ

2014年 冬号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>
御蔵学校を開催いたします。詳しくはチラシをご覧ください。



今月の注目記事 P1 震災後の20年を振り返る ー田中保三理事 ロドニー賞受賞記念ー

震災後の20年を振り返る

ー田中保三理事 ロドニー賞受賞記念ー

当団体理事の田中保三さんがこの度、神戸の市民賞『ロドニー賞』を授賞いたしました。

この賞は、神戸スイーツの名店である神戸風月堂が創立し、「神戸っ子を驚かせ、なおかつ元気づけて下さったステキな方」に贈る賞で、神戸開港の時に祝砲を放って神戸の人々を驚かせたというイギリス艦隊旗艦「ロドニー号」にちなんでいます。選考委員により毎年1名選ばれ、田中さんが24人目の受賞者となりました。

震災後の田中さんのまちづくり活動が、この度の評価につながりました。そこで今号では、田中さんを中心に、阪神・淡路大震災後の活動を振り返りたいと思います。



全焼した、株式会社兵庫商会の大型倉庫

田中さんが、代表取締役を務めていた（現在は会長）自動車部品卸売業を営む株式会社兵庫商会は、神戸市長田区御蔵通5丁目にあり、阪神・淡路大震災で社屋全6棟中5棟が全焼するという大きな被害を受けました。中でも幸いにして、社員さんたちは全員無事。社屋、商品、筆記具に至るまで、会社の再開が危ぶまれるほどの被害でしたが、社員さんを一人も首にすることなく、全員で再建への一步を踏み出しました。御蔵通5・6丁目は、地区の約7割が全焼するという被害を受け、震災復興土地区画整理事業が行われることになりました。



御蔵5-5 ボランティア村

会社再建の一方、ピースポートとのつながりで、株式会社兵庫商会有った土地にプレハブ小屋を建て、震災復興に関わるボランティア団体が拠点として利用しました。後に御蔵5-5 ボランティア村と呼ばれるようになりました。約5年の間に、13団体がボランティア村に拠点を置き活動しました。その1団体にSVA（曹洞宗国際ボランティア会・現在はシャンティ国際ボランティア会）もあり、曹洞宗の方々とのご縁の始まりともなりました。

1995年8月には、河内音頭の生演奏による盆踊り、1996年8月には宮城県の仙台や古川から七夕飾りを持ってきて、3日間夏祭りを行いました。飾りを取り付ける大きな竹を神戸市北区淡河で取り、トラックでは積みきれない中を強引に運び込みました。また、飾りの取り付け方法を古川市（現在の大崎市）まで聞きに行き、よくわからないでいると、仙台の方々がはるばる神戸まで手伝いに来て下さることになりました。後に、東日本大震災での支援につながります。



七夕飾り



一周忌合同慰霊法要

1996年1月には御蔵地区合同慰霊法要を執り行いました。地区住民を中心に実行委員会を立ち上げ、法要当日は全国から130名近い僧侶の方々がお越し下さり、読経していただきました。葬儀屋さんがボランティアで祭壇や会場設備をご用意下さり、下関ふぐ連盟さんがぶく鍋5千食無料炊き出しが振る舞われました。僧侶の方々に生活用品などを持ち寄っていただき、1,000円でバザーも行いました。

1995年3月に発足した御蔵通5・6丁目町づくり協議会は、田中さんが最初は相談役、後に会長を務めました。コンクリート製の慰霊碑を作るにあたり、住民やボランティアでコンクリート打ちをしたり、公園作りでは花壇づくりや芝張り、低木植えなど「自分たちでできることは自分たちで」を合言葉に行ってきました。古民家移築による集会所を建てるときも、住民や学生ボランティアが大勢作業に加わり、温かみのある建物となりました。集会所では、俳優の唐十郎氏ら文化人を



共同再建住宅 みくら5



御蔵南公園の低木を住民らで植える

招いての「御蔵百聞くらぶ」や、小学唱歌をみんなで歌う「唱歌の会」など、支援者のお力添えをいただき開催しました。人と人のつながりを大切にする活動を続け、まちづくりにつなげてきました。

1999年の台湾集集大地震がきっかけで、台湾とのつながりもできました。御蔵の住民やボランティアらで台湾の被災地へ視察ツアーに行ったり、福井県おおい町の古民家を台湾へ移築も実現しました。移築作業には日本から大工さんや左官屋さん、学生ボランティアも作業に駆けつけてくださいました。

2004年10月20日の台風23号で被害を受けた、豊岡市出石町鳥居地区に泥かきボランティアに行き、そこで出会った区長とのご縁で、市民農園再建支援に取り組むことになり、現在もボランティアさんたちの力を借りながら継続しています。神戸から通って應作



集会所完成

業をすることで、鳥居地区のさらなる活性化につなげようとしています。

東日本大震災では、慰霊法要や七夕祭りでお世話になった方々がおられる地域を中心に訪ね、お寺や墓地のガレキ撤去などを手伝いました。ガレキ撤去後の墓地では、檀家さんたちにより重機を入れて墓石を元に戻す作業も行われました。最初に少しの手助けが、地元の方による復旧作業にバトンタッチできました。

台湾へ移築した福井県おおい町の古民家は、作家の水上勉氏のお父さんが大工の棟梁として建てた家だったことがきっかけで、台湾への移築後、水上勉氏と、台湾出身で神戸ゆかりの作家陳舜臣氏の著作を集めた文庫を、台湾の民家内に設置させていただくことになりました。

陳舜臣氏にお会いしたときに、「アジアの若者が交流できる、著作や資料を集めた記念館を作りたい」という思いを聞いたことがきっかけで、賛同者を募り勉強会を重ね、有志らで陳舜臣アジア文藝館設立準備委員会を設立。2014年5月「陳舜臣アジア文藝館」を、神戸元町にプレオープンにつなりました。月・水・土曜日の12時から17時までオープンしています。ぜひおたずねください。

<http://asia-bungeikan.com/>

20年の間、多くの出会いがあり、多くの感動がありました。田中さんはロドニー賞式の講演で「これまでのストーリーは、阪神・淡路大震災が無かったらすべて無いこと。誰かがやらなければならないのなら、なぜ俺がやって悪いんだという気持ちでこれまでやってきました。自分にやれる機会と能力があるのなら、突っ込んでいこうと。善の不在も悪につながる気がします」と語りました。まち・コミは、その気持ちに引っ張っていただき、応援して下さった皆様のおかげで、再来年に設立から20年を迎えることができます。みなさま今後ともよろしく願いいたします。

石巻市雄勝町の震災前と今 ～第 24 回御蔵学校を前に～

2015 年 1 月 18 日に開催する第 24 回御蔵学校では、宮城県石巻市雄勝町の住民を講師に迎え、勉強会を行います。そこで、雄勝町に関する情報をお伝えします。

震災前

雄勝町は、三陸沿岸のリアス式海岸で、昭和 40 年代までは、カツオ漁が盛んでした。その後、獲る漁業から育てる漁業への流れで、牡蠣、ほや、銀ジャケ、ホタテ等養殖が盛んになりました。また、東京駅の屋根に使われているスレートの材料である玄昌石の産地であり、国内の硯の 9 割を占めています。人口 4,300 人、1,637 世帯の、そんなまちに 2011 年 3 月 11 日に津波が襲いました。

被害

被害者 236 名（死者 161 名・行方不明者 75 名）罹災世帯数 1,467 世帯（全壊 1,304 世帯・大規模半壊 19 世帯、半壊 77 世帯、一部損壊 67 世帯）避難所には最大 2,548 人が避難しました。地区内 23 カ所に 2,116 人、隣接する河北町の避難所 3 カ所に 432 人。

20 地区の内、半島先端部を覗く 15 地区が壊滅的な被害を受けました。特に町の中心地区は、618 世帯の内、96% が全壊すると共に、総合支所等の行政機関、病院、金融機関、学校、ガソリンスタンド等の生活関連施設が全て失われました。

漁業従事者は、震災前の 430 人から、240 人（2012 年 8 月）になりました。

生活基盤の復旧について

保育所と小学校 2 校、中学校 1 校は、近隣の飯野川地区に間借りで開設し、医療については、震災直後から日赤を始めとする医療団による救護所や外部支援者による診療所等が開設されていました。2011 年 10 月には、仮設の診療所が開設しました。11 月には仮設店舗



や郵便局が営業開始、2012 年 6 月 5 日には歯科診療所が診察を開始、6 月 11 日にはガソリンスタンドも営業を始めました。

仮設住宅について

地区内に 6 カ所 161 戸（全壊世帯数の 12.3%）の仮設住宅が建設されました。2011 年 7 月頃から順次仮設住宅の入居が可能になりました。2012 年 6 月の避難者は、石巻市内に 46.2%、宮城県内に 25.9% となり、ほとんどの人が雄勝町を離れていました。2012 年 8 月には、人口が 24.0% になり、壊滅的な被害を受けた中心部だけ見れば、5.1% になりました。

復興状況

雄勝町では、やむなく転出した方も多く、話し合いをしたくても、集まりにくい状況になっていました。また、復興事業の選択肢が、一つであるため、現地再建をしたくても、事業の枠に漏れる者もあり、格差や利害関係が生じ、話し合いの前に、自分と地域の皆との正確で納得のいく条件整理が難しく、会合では、言い争いになる可能性が高く、会合を持ちにくい状況でした。

土地を扱う復興事業に時間がかかるため、元の地区に戻りたいと希望していた人も、時間に耐えられなくなり徐々に少なくなりつつあります。

震災前、地区の居住地の大半を占めていた浸水域は災害危険区域であり土地利用に制限がかかり、震災前のように、居住地がとれないため、人がいないまちでどのように復興できるのか模索しています。

1月17日(土) 早朝からお待ちしております

阪神・淡路大震災の発生から20年を迎えます。

まち・コミスタッフ一同、午前5時46分を慰霊の気持ちで御蔵北公園(まち・コミュニケーション御蔵事務所のすぐ南)にて迎えます。その後、6時ごろからは事務所内にて、震災を語り、まち・コミに関わるみなさまの交流の場を考えております。

また、チラシでご案内しておりますとおり、1月17日と18日に「御蔵学校」を開催いたします。お集まりくださった方々と共に、阪神・淡路大震災を学び、今後の災害について考え、東日本大震災を改めて知る日にしたいと思っておりますので、ぜひご参加のほどよろしくお願ひいたします。

ご都合がよろしければ、ぜひお越し下さいませ。



2014年1月17日午前の慰霊法要



2014年7月25日第22回御蔵学校

大地のつぶやき

阪神・淡路大震災二十年に想う

二十一年目がやってくる。地震直後から神戸市の都市計画のありように大いに疑問を持った。それは区画整理事業に当たって、さも当然の如く、スジもの(道路)、ハコもの(建造物)、ヒラバもの(公園等)に片寄りすぎて、まちの空間の存在を顧みなかった。そこには人が住んで生計を営んでいた。単に道路、公園でおしまいではない。自分の家だってそうだ。家族構成や年を経ると自ずと修復せざるを得ない。部屋の模様替えや、台所、洗面所、風呂場やトイレも然り。そこには住む人の心が存在する。まちづくりもそうだ。まちの空間が醸し出す雰囲気がとても大事なのに、これが疎かになった。二昔前(震災前)のまちには下町の良さ、即ち露地空間が生み出す独特の雰囲気があった。そこに住む人々は気配を感じ取る微妙な感覚が研ぎ澄まされていて、生活の匂いのする一見煩わしいようだが高齢化社会の今こそとても大事なお節介がそこに存在していた。だから全国どこにでもある木造密集市街地にあっても、お互いに火事を出さないよう、孤独死も出ないよう目配り、気配り、心配りで気を遣い合っている。

このまちは震災後の区画整理でその雰囲気が消し飛んだように思う。そこで反省として木造密集地にあっては、あらゆる災害にどう備えるのかをまちづくりとして早急に取り上げるべきだ。住民、行政、専門家、中間組織としての学生ボランティアを巻き込み、まちづくりのあり方を事前に検討することが喫緊の課題だ。何故ならことが起こってからでは生命の危機も迫っているので、一刻の猶予も許されなしい。起こってから初めて住民と行政が顔合わせしたんでは対立に移行し易いのである。平時に四者間で結論は出なくても、相手が何をどう考えているのかだけでも理解出来れば、お互いの譲歩もそれ程難しいものにならずに、人・暮らし・仕事・命に重点を置いたまちづくりが出来らるだろう。

株式会社兵庫商会 田中保三

今号は「阪神淡路20年事業」として、ひょうご安全の日推進県民会議の助成を受けて発行しています。



まち・コミ活動報告 9/1～11/30

9/4【事務局】認定NPO申請相談	内町古民家解体支援	11/12【研修受入】神戸大学キャンパスアジアプログラム
9/9【講師派遣】金沢大学学生へ講演	10/1【研修受入】豊岡市市会議員(石巻)	11/13【震災学習】加古川市立両荘中学校
-9/1【復興支援】東北支援	10/10【研修受入】徳島大学(雄勝)	11/20【震災学習】倉敷市立多津美中学校
9/13【研究調査】御蔵地区再建調査	10/12【研修受入】広島医療関係者(石巻)	11/22【講師派遣】神戸松蔭女子学院大学
9/13【講師派遣】「社会に新しい可能性をひらく市民力」シンポジウムで事例報告	10/18・19【地域交流】出石市民農園	11/23【研修受入】大阪経済大学
9/14-10/15【復興支援】東北支援	10/22【震災学習】春日井高校震災学習	11/24【地域交流】出石市民農園
9/15【研修受入】関西大学管ゼミ雄勝町視察	10/24【講師派遣】日本災害復興学会	11/26-【復興支援】東北支援
9/16【震災学習】NPOふたば	10/26-11/11【復興支援】東北支援	11/29【講師派遣】徳島大学タウンミーティングへのインターネット中継・出演
9/21-23、10/4-5・10-11【国際交流】岩手県沢	11/11【研修受入】気仙沼さかなの駅	
	11/11【講師派遣】首都大学東京市古研	

ご支援、ありがとうございます。9/1～11/30(新規・継続) 順不同・敬称略

- 【正会員】遠藤勝裕(埼玉県) 井上赫朗(東京都) 今田忠(大阪府) 田中貢(大阪府) 田中保三(兵庫県) 宮定章(兵庫県) 戸田真由美(兵庫県)
- 【賛助会員】濱岡歳生(山口県) 大牟田智佐子(大阪府) 高橋敏文(埼玉県) 難波健(大阪府) 直田春夫(大阪府) 久保田千春(兵庫県) 兵庫県震災復興研究センター(兵庫県) 中田敬司(兵庫県) 高谷克人(東京都) 石川公弘(神奈川県) 桜間裕章(兵庫県) 畑山茂(岩手県) 小野寺宏一(宮城県) 高橋真由美(宮城県) 六車恵美子(兵庫県) 岡本誠(兵庫県) 川村武也(兵庫県) 山下憲子(兵庫県) 辻野芳郎(兵庫県) 古池信幸(兵庫県) 上田伴子(兵庫県) 豊島学恵(大阪府) 鎌田啓通(徳島県) 安藤厚子(高知県) 芦田英機(大阪府) 坂戸勝(東京都) 黒崎浩行(東京都)
- 【寄付】宮嶋由紀子(東京都) 久米麻子(東京都) 木村徹(広島県) KOBE ピタパポイントから(匿名)
- 【購読会員】福島かずえ(宮城県) 熊谷博子(東京都) 中川寿子(兵庫県)
- 【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中!

認定NPO法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができますようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

賛助会員

当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし

正会員

当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
年会費：10,000円 総会議決権：あり

入会申込書のご提出をお願いしております。

購読会員

当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 今から15年以上前のまち・コミの記録写真を見てみると、みなさんお若い！私の写真あるかな？という方、ぜひお越し下さいませ(戸)

お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【郵便振替】

口座番号 00950-3-42788

【三井住友銀行・長田支店】

普通口座 7669623

ご寄付もよろしくお願いたします

<p>2014年12月1日発行 no.9</p> <p>編集/発行 特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション</p> <p>事務所 〒653-0014 兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5) TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961</p> <p>東北出張所 〒986-0859 宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方</p> <p>e-mail m-comi@bj.wakwak.com URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/</p>

ホームページからバックナンバーをご覧いただけます